



動物レスキュー通信

2017年11月 第54号 (平成29年11月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

ワンちゃん、ネコちゃん 生活の質と飼い主の責任

本当の責任感とは？



お宅のワンちゃん、ネコちゃんの幸せって何なのでしょう？ たくさん食べられることでしょうか。それともたくさん遊ぶことでしょうか。国民性や文化、宗教間などの違いで、動物に対する考え方や法律は様々ですが、現在、たくさんの方で動物福祉の基準となっているものが、1965年にイギリスでロジャー・プランベルによって提唱された「5つの自由」です。やがてこの原則は国際的にも認知されるようになっていきます。この「5つの自由」とはどのような自由なのでしょう？

- 1、飢え乾きからの自由
- 2、不快からの自由
- 3、苦痛からの自由
- 4、恐怖・抑圧からの自由
- 5、正常な行動を表現する自由

(この5つです。これらの自由のうち1、飢え乾きからの自由、2、不快からの自由、3、苦痛からの自由、この3つの自由は、ペットフードなどの充実、エアコンやペット用グッズの充実、獣医療の充実などの理由から日本でも広く理解されていると言えます。それでは4、恐怖・抑圧からの自由、5、正常な行動を表現する自由はどうでしょうか？ 4、5はワンちゃん、ネコちゃんの習性を良く知った上で、それぞれに適切な考慮が必要となります。しかし日本の法律に規定されている「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」には「健康及び安全の保持」という項目が織り込まれていますが、動物の習性をどのように尊重するかは書かれていません。しかし北欧各国の動物関連の法律には5、正常な行動を表現する自由に関する事がとても具体的に書かれています。

例えばスウェーデンの法律には「人間は動物の自然な行動を表現する可能性が与えられるように健全に世話をする必要があります」という内容が盛り込まれています。このような内容は日本の動物愛護法には十分には含まれていないように感じます。又「犬と猫は、その社会的なコンタクトのニーズが満たされている必要がある」と書かれています。分かりやすく説明すると、★他の犬や猫あるいは人間など、なにかしらの社会的な交流を持たせること。又、人間と交流の場合は、毎日必ず何らかのアクティビティ(運動や遊びなど)を数時間行うこと。★人間の目の届かないところで犬を6時間以上置き去りにしてはならない。★犬を一日中家に閉じ込めておかず、日中に外に出てトイレができるようにする。日中は少なくとも6時間、こまめに外に出してあげる。又犬舎住まいの犬ならば、たとえ犬舎に庭があっても、必ず一日一回は、犬舎外のとこで用が足せるよう工夫してあげる。★電気ショック首輪やスパイクのついた子エコーなどで犬を訓練してはならない。★動物の習性を理解した上で自然な行動を損なわずに飼うこと。このように細かく書かれてあります。これはワンちゃんが心身ともに健康でいられるように、ストレスをためないようにするにはとても大切なことです。これらの事を現在の日本でのワンちゃんの飼養状況に当てはめてみるとど

うでしょうか？ 多くのワンちゃんが長時間、ひとりぼっちでお留守番していたり、日中に一度も外に出してもらえていなかったり、一日一度の散歩すらままならなかったり、というのが現状のように思います。と言う事は日本で飼われているワンちゃん達は、ストレスをため込んでいるワンちゃんが多いとも言えます。このストレスこそがワンちゃんの問題行動を引き起こす原因になっています。問題行動とは飼い主に都合が悪い事はかりなのですが、ワンちゃんの問題行動を解消してあげる事によって自然に治ってしまう事だであるのですから、この問題行動が日本での殺処分理由にもなっています。欧米で飼われているワンちゃん達はストレスがたまりにくい環境で生活しているため問題行動は起こりにくいと言われています。そしてワンちゃんを飼養する立場である人間の意識の違いも大きいと思います。日本のようにペットが陳列されて販売される事はなく、ブリーダーから直接購入するので、ワンちゃん、ネコちゃんを手に入れるまでのハードルが高く、それまでに色々情報収集などをして知識を得た上で迎える事となります。又、「習性を理解した上で飼養」をする必要があるため、国民が動物と真剣に向き合っています。その上で「自分の生活環境とも照らし合わせて満足いく世話ができないのなら飼わない」「動物の世話をする余裕がないなら飼わない」と言う選択が動物への愛情表現だと言う事を理解している人が多いという事です。動物を飼う事はとても素晴らしい事ですが、ワンちゃん、ネコちゃんへ満足な愛情を注いであげる事ができなかったり、一緒に暮らす余裕がなければ、動物を飼わないという選択は動物愛護精神の一環であり、責任感のある行動だと信じて、これからも「コツ」と啓蒙活動をすすめてまいります。(詩月)